

西表島世界遺産だより

第2号

平成29年1月発行
西表島部会
事務局

世界遺産の管理計画を承認・推薦書提出に合意！



平成28年12月27日に、世界自然遺産候補地の12市町村の首長等が集まり、奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地地域連絡会議が開催されました。候補地の自然を守っていくための管理計画が承認され、世界自然遺産推薦に向けて合意がなされました。今年の2月1日までは世界遺産センターに推薦書と管理計画が提出され、登録審査に向けて本格的に動き出します。

< 候補地の12市町村 >

奄美大島：奄美市、大和村、
宇検村、瀬戸内町、龍郷町
徳之島：徳之島町、天城町、
伊仙町
沖縄島北部(やんばる)：国頭
村、大宜味村、東村
西表島：竹富町

地域連絡会議には竹富町の西大舩町長も出席され、イリオモテヤマネコの保全対策についてのご意見や、世界遺産登録に向けての意気込みを述べられました。

イリオモテヤマネコの交通事故に対して、フェンスの設置や普及啓発など様々な保全対策を行ってきているが事故件数がなかなか減らず、大変危惧している。そういった対策に加えて、ヤマネコの餌場となる山の中の水田を再生することなどにより、道路に出てこないようにする対策も重要だと考えており、国や県にもそういった観点での対策も検討いただきたい。

奄美・琉球の各地域にはそれぞれの文化が息づいており、それらは自然と深く結びついている。八重山地方、西表島では、文化や自然を大切に、生き物を育むことを大切にしており、それは世界自然遺産を目指す4地域みな同じ思いだと思う。希少種や重要な自然を守り後世に伝えていくことが大切であり、特にイリオモテヤマネコをいかにして守るかということに重点的に取り組んでいきたい。イリオモテヤマネコをしっかりと守っていくことを誓う。



竹富町 西大舩町長

4つの地域が示す世界自然遺産としての価値

西表島世界遺産だより第1号では、西表島が生態系、生物多様性の点で素晴らしい価値を持っていることをお伝えしました。さらに、今回推薦候補地となっている奄美大島、徳之島、沖縄島北部（やんばる）、西表島の4地域を含む琉球諸島の成り立ちをみることで、その価値のより深いストーリーが見えてきます。

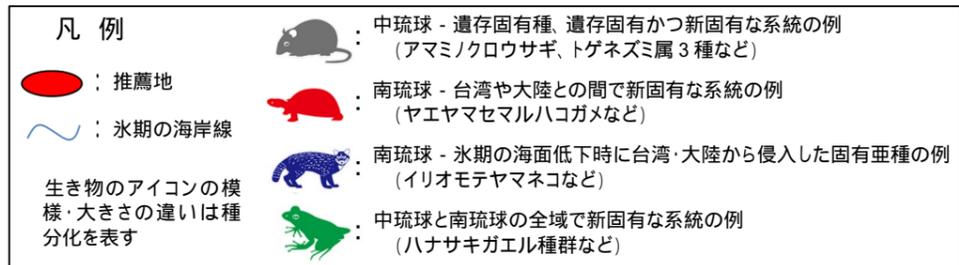
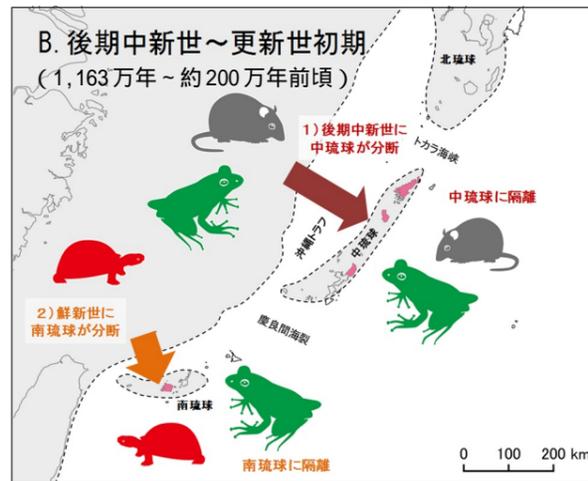
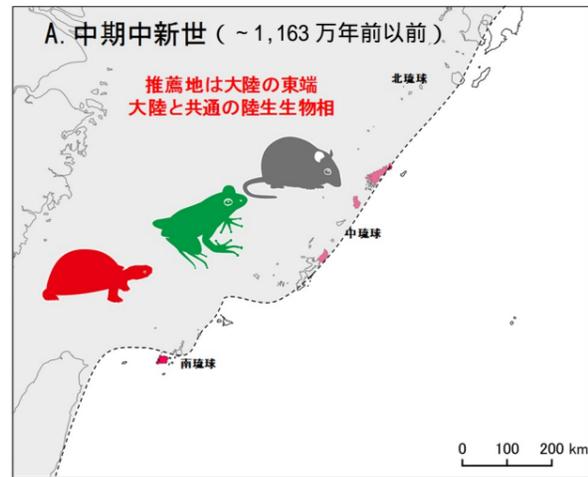
琉球諸島の成り立ちと生物の進化

A 1163万年以上前、推薦地を含む現在の琉球列島は大陸の一部でした。この頃は大陸と共通の陸生生物が生息していたと考えられます。

B その後、1,163万年前～533万年前には中琉球（奄美大島、徳之島、沖縄島北部を含む地域）が大陸から分断されました。さらに、533万年前～258万年前には、南琉球（西表島を含む地域）が台湾・大陸から分断されました。こうした分断により、中琉球や南琉球に取り残された生物の独自の進化が進みました。

C 約200万年前以降、大陸では中琉球と共通の祖先種をもつ陸生生物が絶滅してゆき、中琉球に固有な種が残りました（遺存固有種）。また、氷期、間氷期が繰り返され訪れたことによる海面の変化で、島々の分離、結合が繰り返され、島ごとの種の分化が進みました（新固有種）。氷期の海面低下時（約9万年前）には、イリオモテヤマネコの祖先が南琉球にわたってきました。

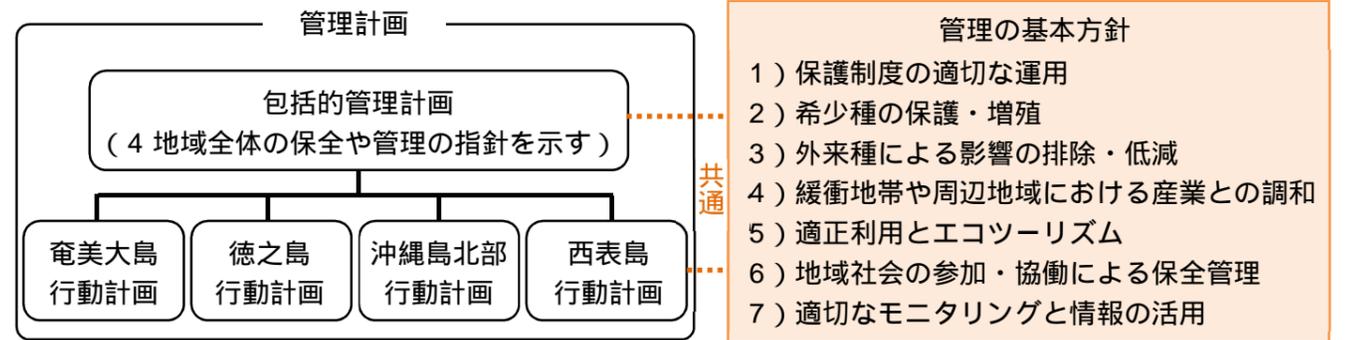
このように、琉球諸島の成り立ちと連動した生き物の進化の過程が現在も各島に生息している生き物によく表れているということが、この地域の世界自然遺産としての一番の価値です。奄美大島、徳之島、沖縄島北部（やんばる）、西表島の4地域は、琉球列島のなかでも特に自然が豊かで、かつ、地史と進化の関係を示すうえで代表的な地域です。4地域をあわせて世界自然遺産にふさわしい価値を持つと考えられます。



本ページの図表及び内容は推薦書（案）をもとに作成しています。

世界自然遺産の管理計画の構成

世界遺産候補地の4地域ではそれぞれ地域の特性や課題が異なります。そのため、世界自然遺産としての価値を守っていくための管理計画は、4地域全体の保安全管理の指針を示す包括的管理計画と、地域別の行動計画の2段階構成になっています。行動計画には、包括的管理計画に示された管理の基本方針に沿って、地域ごとの課題に対応してどの主体がどのような取組を行うかを示しています。



西表島行動計画：西表島の自然を守りながら活用していくために

西表島地域の課題として特に重要なもののひとつは、観光等による利用と自然環境の保全をいかに両立していくかということです。現在、西表島には年間約39万人の観光客が訪れており、大型観光バスでのツアーや、豊かな自然を利用する自然体験ツアーなどが盛んに行われていますが、過度の利用による自然への悪影響も見られます。世界自然遺産への推薦・登録で注目が集まり利用者が増加すれば、その影響もさらに大きくなってしまふことが心配されます。

この課題について、西表島行動計画では、環境への負荷を低減するための施設の整備、利用のコントロールや利用ルールを設定・遵守、利用に伴う自然環境や地域社会・経済への影響・効果の追跡調査（モニタリング）などが、重点的に実施するべき取組として記載されています。

国や沖縄県、竹富町はもちろんのこと、地域の皆様にもご協力いただきながら、こうした取組を一つ一つ着実に実施していくことで、西表島の自然環境を守りながら持続的に利用し、地域の発展につなげていくことが重要です。

表 西表島行動計画に記載された取組の一例（5：適正利用とエコツーリズムの一部）

項目	実施主体	内容（抜粋）
施設整備による負荷の低減と適正利用の推進	環境省、林野庁、沖縄県、竹富町、地元関係団体	・トレッキング等の利用による自然環境への影響を防止するための木道の整備 ・世界自然遺産への理解を深めるための拠点施設の検討 ・トイレ等のインフラ設備の充実に向けた検討
適切な利用コントロールの実施及び利用ルールの設定・遵守	環境省、沖縄県、竹富町、地元関係団体	・ヒナイ川や周辺国有林での自然体験型ツアーについて、過度の利用への対策の強化 ・仲間川地区保全利用協定の適切な運用 ・フィールドの特性や利用状況に応じたゾーニングと利用ルール設定に向けた検討
利用に伴う自然環境や地域社会・経済への影響・効果のモニタリング	環境省、沖縄県、竹富町、地元関係団体	・観光・エコツアー等の利用状況を把握するとともに、利用に伴う自然環境への影響や地域社会・経済への影響・効果を評価するための有効なモニタリング手法を検討し、継続的なモニタリング・評価を実施できる体制を確保する。

世界自然遺産事情！②

北海道にある世界自然遺産「知床」の知床五湖では、観光利用と自然環境の保全の両立に有効な利用ルールが設定されています。利用ルールは、観光客の混雑に伴う植生浸食やヒグマの問題に対処するもので、利用人数の調整等を行う利用調整地区制度(自然公園法に基づく)といえます(詳細右表)。

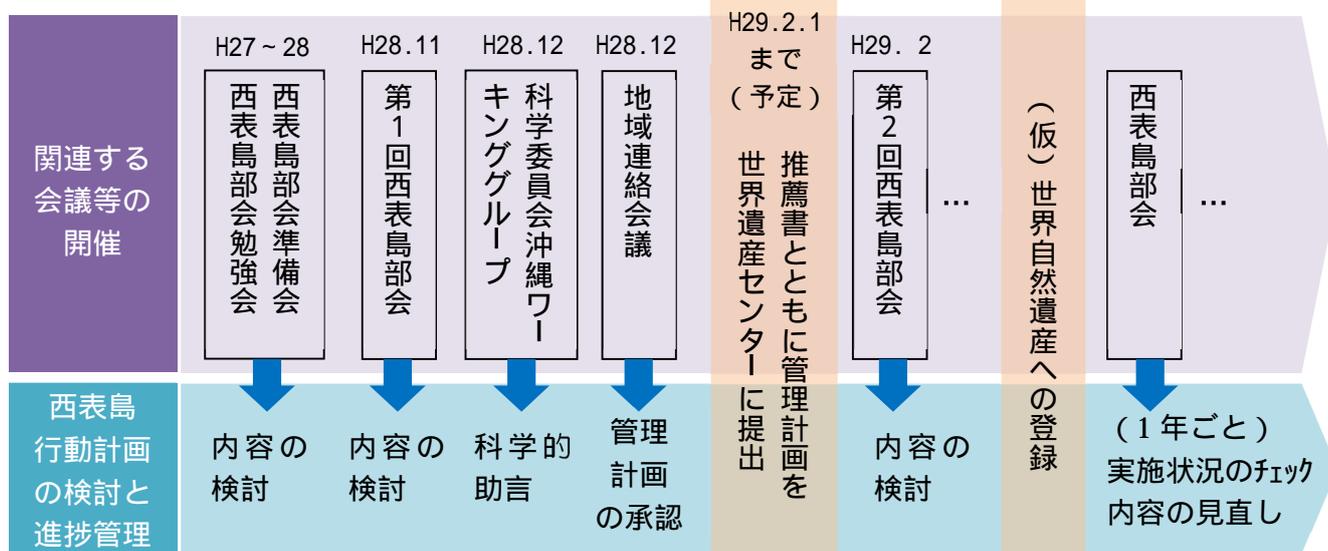
知床五湖は、観光利用者の増加に対して、ルールを設定している事例といえます。

植生保護期 (開園～5/9、 8/1～10/20)	利用条件	レクチャー(10分)の受講
	手数料	250円
	利用人数	10分ごとに50人
ヒグマ活動期 (5/10～7/31)	利用条件	ヒグマと遭遇時の対処法を習得したガイドの引率
	手数料・ガイド料	4,500円～5,100円
	利用頻度	数十分おきにグループが発
自由利用期 (10/21～閉園)	自由に無料で散策可能	

世界遺産登録後も、継続して保全・管理に取り組んでいきます。

世界自然遺産への登録はゴールではなく、登録後も継続して保全・管理を行っていくことが大切です。世界遺産への登録後も、西表島部会を継続的に開催し、地域の皆様と一緒に、行動計画に記載された取組がきちんと実施されているかどうか、毎年チェックを行っていきます。また、来島者の増加など状況の変化に対応して、必要な取組を追加するなど、行動計画の見直しを行い、西表島の素晴らしい自然がきちんと守られるようにしていきます。

<西表島行動計画の検討と進捗管理のスケジュール>



第2回「西表島部会」開催のご案内

西表島の世界自然遺産への推薦に向けて、地元の関係者による会議を継続的に開催しています。地域の皆さんも聞くことができますので、ぜひ傍聴にいらしてください。(参加費無料)

日時	平成29年2月15日(水) 13:00～15:30
場所	中野わいわいホール
申込	不要 (直接会場にお越しください)

お問い合わせ先

沖縄県自然保護課 TEL:098-866-2243

竹富町自然環境課 TEL:0980-82-6191